

佐賀新聞 2011(平成23)年11月29日(火)

幕臣として幕末を生き、明治維新に伴って伊万里県権令（現在の知事）も務めた山岡鉄舟を顕彰する特別展「山岡鉄舟—激動の幕末・明治を駆け抜けた剣・禅・書の達人—」が12月8日から、県立美術館で開かれる。展覧会に向けて、同館の担当学芸員が4回にわたって鉄舟の足跡や人物像を紹介する。

# 山岡鉄舟展 剣・禅・書の達人

県立美術館学芸課主幹 福井 尚寿

身長6尺2寸（188センチ）、体重28貫（105キログラム）。剣術で鍛えあげた強靱な体格の山岡鉄舟（1836〜88年）は、さぞ人目を引く存在であったろう。その鉄舟が1871（明治4）年、廃藩置県で現在の佐賀県に厳原県（旧対馬藩）を加えて伊万里県が成立すると、12月27日付で権令（知事に相当する職）に任命され、伊万里県に赴任した。それから140年目に当たる今冬、特別展「山岡鉄舟—激動の幕末・明治を駆け抜けた剣・禅・書の達人—」を開催する。

この展覧会は、鉄舟が建立した東京都台東区の臨濟宗寺院「全生庵」に所蔵される遺品類をはじめとする鉄舟の最重要資料を中心に、佐賀県内に伝来する鉄舟の書を加えて約60点を出品。誠実さと抜群の行動力で活躍した、鉄舟の魅力的な人間像を紹介する。

鉄舟は江戸幕府の御蔵奉行を務めた小野高福の4男として江戸に生まれ、20歳の時、槍術家山岡静山の急死後、山岡家の養子となった。鉄舟が歴史の表舞台に登場するのは1868（慶応4）年の戊辰戦争のこと。33歳だった鉄舟は幕府の精鋭隊の頭で、將軍徳川慶喜の処遇について西郷隆盛（東征大総督府下参謀）と静岡で直談判し、その後の勝海舟と西郷との会談による「江戸城無血開城」を導いた功績で有名である。明治になると明治天皇の侍従などを務め、また禅と剣術の修行、能書家と情報提供を呼びかけて、鉄舟に



山岡鉄舟の肖像写真（全生庵蔵）。身長188センチ、体重105キログラムの大きな体格だった

## デキル男、佐賀に来る。

作であると、幾度となく聞かされた。伝来事情を尋ねると、残念ながら裏付ける記録などは伝わっていない。

一方、伊万里県の行政史料によって鉄舟が伊万里県に赴任、滞在したのは1872（明治5）年1月12日から18日までわずか7日間であることが知られる。ほかに訪問記録はなく、鉄舟が佐賀県内で書を制作した可能性は低く、その後の伝来と考えられる。興味深いことに情報提供は、いずれも佐賀市以西の県西部からで、鉄舟に対する関心が強かったことを物語っている。

次回以降、鉄舟の幕末の活躍、伊万里県滞在、書の制作について紹介する。

### ◆メモ◆

会期は12月8日から1月15日まで。12月12、19、26、29、31日と1月10日は休館。観覧料は大人600円（前売り500円）、大学生300円（同200円）、高校生以下無料。県立美術館と全生庵、佐賀新聞社でつくる実行委員会主催。県、県教委など後援。問い合わせは県立美術館、電話0952(2)243947。